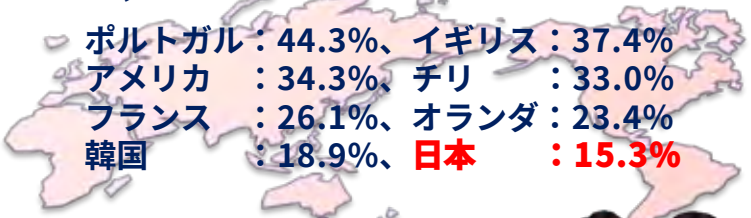
資料2

日本の研究職における女性活躍の現状

◆ 政府による女性研究者に対する具体的な数値目標
- 2020年までに，女性研究者の割合を30%に
- 指導的地位にある女性研究者の割合を30%に

◆ 日本では，女性研究者が他の先進国と比べて遥かに少ない



ポルトガル：44.3%、イギリス：37.4%
アメリカ　：34.3%、チリ　　：33.0%
フランス　：26.1%、オランダ：23.4%
韓国　　：18.9%、**日本　　：15.3%**

◆ 特に理工系の女性研究者が不足
- 理学系分野の女性教員の割合：14.2%
- 工学系分野の女性教員の割合：10.2%

※男女共同参画白書（概要版）平成29年版より

理工系における女性研究者が不足している原因

◆ 周囲の家族，教員等の旧来の役割に関する考え方
⇒ 本人自身の中に「女子は理工系に向かない」との無意識の思い込みを生む原因

◆ 女子が理工系に向かうための初等・中等教育環境の整備不足

◆ 研究が最も進む時期の多様なライフイベント：結婚，出産，育児，介護等
⇒ 研究生活を続けることの難しさ→離職者増加
⇒ 復職することの難しさ：ギャップを埋めるための学び直しの必要性

◆ 身近なロールモデルの不足，組織として支援する意識の欠如

お茶の水女子大学の取組

【理系女性人材育成の取組】

◆戦略的教育研究組織による取組

理系女性教育開発共同機構
- 女子の理系進学増加に向けた取組
- 理系分野の女性リーダー育成

ヒューマンライフイノベーション開発研究機構
- 人が生涯を通じて健康で心豊かに過ごすための研究・開発

サイエンス＆エデュケーションセンター
- 児童，生徒等への出前授業，理科教員研修等の理科教育による社会貢献

◆サイエンス＆エデュケーションセンターの活動

平成28年度では510名に対する理科教員研修，児童・生徒7,482名に対する理科出前授業，一般社会人831名の市民科学・公開学習講座を実施

◆スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）支援

SSH指定の6女子高校の活動支援として，研究交流会を夏休みに本学理学部にて開催

◆「科学への誘いセミナー」

理系志望の女子高校生に対し，理学部教員が自然科学の講義を実施。参加者は例年100名を超える

【本学独自の女性活躍支援策】

◆学内保育所（現:いずみナーサリー）の設置

平成14年に病院のない**国立大学初の保育施設**として開所。学生の保育料半額を大学が補助

◆その他の本学独自の研究者支援

① 子育て中の女性研究者支援
研究補助者配置等により，論文数・外部資金獲得件数が増加

② 研究者本人又は配偶者の妊娠中や産後休暇・育児休業後，親族の介護・看護に携わる学内研究者への一時支援
研究・事務等の補助業務に対して謝金を支出

③ 育児等により研究を中断した女性研究者の復帰支援，研究の継続支援「みがかずば研究員」制度
平成24年～28年の5年間で35名を支援
半数以上が，国立・私立大学のテニュア・ポスト等を獲得